

助成事業実施報告書

団体名 社会福祉法人クリスト・ロア会 児童養護施設 聖ヨゼフホーム

代表者・役職名 氏名 施設長 鹿毛 弘 通

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

子育て支援キャンプ

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1946年8月にカトリック・クリスト・ロア宣教修道女会によって、戦災孤児を救済するため、埼玉県下に設立、1998年児童福祉法改正に伴い、児童養護施設に改正、2008年4月には東京都専門機能強化型施設として認可を受ける。家庭的養護に向け、2018年には大規模改修を行い、小規模化を実現している。また、西東京市内に3施設のグループホームを置き、現在67名の定員。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

①家庭復帰を控えた親子の外泊交流の様子を施設職員が傍で見守り、保護者が専門職に気兼ねなく相談ができる機会を設けることで、子ども・保護者・職員が家庭復帰をより前向きにとらえ、安心して家に帰る準備を進める

②地域で奮闘する里親の苦労も大きなものであります。里親が抱え込み、行き詰まりや疲弊することを防ぐため、児童養護施設としてできる地域貢献のひとつとして、支援を必要とする子どもと保護者と支えていく

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

家庭復帰に向けた親子キャンプ。当日発病により、児童1名が不参加となったが、3家庭と引率職員5名総勢13名が参加し、親子での観光、散策および職員が主導し調理、創作活動を親子で行った。また、児童就寝後には、心理職やFSWなどの専門職と保護者が一緒に語らう時間を設け、家庭復帰後の不安や悩みを共有した。里親団体つくし小平支部の里親、里子キャンプ。予定では大型バスをチャーターする予定であったが、各家庭ごとが各々で現地集合をすることにし、また、大型バスの利用料が不要のため参加費用は徴収せず。里親子13家庭38名、引率職員5名、総勢44名が参加し、共同でBBQ・花火などの野外活動を行う。また里親と職員の交流会を設け、自立に向けた支援方法や資源の提供を行う。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

家庭復帰に向けた親子キャンプでは、初めての旅行や、初めての野外活動、初めての親子共同作業であり、楽しめたという感想を全家族からもらった。今年度家庭復帰を予定する家族と家庭復帰をした家族との交流を設けたことで、復帰後のイメージを齎せ、復帰後であっても相談しやすい場所として位置付けることが出来た。

里親子キャンプにおいて、当初予定していた人数を上回った。当施設より自立支援コーディネータを参加職員としたため、自立に向けた支援について、多くの方の悩みや相談に応じることが出来た。また、児童養護施設に対し相談に応じる場所として印象をつけてもらうと同時に、固い、暗いといった閉鎖的な印象を払拭することができた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

家庭復帰に向けた親子キャンプについて、実施後、保護者が積極性が高まり、家庭復帰計画が短縮されたが、慣例化するには、費用面で課題がある。また、家庭復帰後に保護者同士が繋がることで悪影響となる懸念があるため、保護者および参加家庭数の精査が必要である。

里親子キャンプにおいて、フォスタリング機能となるには、里親家庭との継続した交流が必要である。悩みや相談、施設に対する意見などを述べる家庭ばかりではなく、また、里親家庭のグループ活動が定着しており、当施設が企画したものでありながら、グループ独自で企画実行することがあり、今後連携を図り活動するためには、里親子グループとの積極的な関わりが必要である。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

家族の楽しい思い出に♪
夏の親子キャンプ!

2019.8/31~9/1



夏の親子キャンプとは

- 家庭復帰の近いご家族が対象です
- 親子と一緒に活動して、「楽しい♪」と思える時間を共に過ごしましょう
- 少し前に家庭復帰したご家族も共に過ごすことで、これから家庭復帰するご家庭にとって、後のイメージを膨らませられるといいですね
- 職員も一緒に過ごしますので、今後のことなど、なんでもお気軽にご相談ください



つくし小平支部からのお知らせ



7・8月合併号

夏のイベント お泊り会&KABABUSに乗ろうの報告

<p>夏のイベント お泊り会&KABABUSに乗ろう プログラム 2019年7月27日~28日・山中湖林間寮 (住所 山梨県南都留郡山中湖村平野248-1)(tel-0555-28-5229) 主催 つくし小平</p> <p>(聖ヨゼフホーム 6人) 責任者・鹿毛弘通 長倉千鶴・今井智久 東山洋子・西野彩香 松浦華</p> <p>(参加者 38人) 幼児 3人 小学生 5人 中学生 3人 高校生 3人 大学生 2人 大人 22人</p> 	<p>スケジュール</p> <p>27日</p> <p>8:45 各車ごと集合</p> <p>9:00 出発(三星 or 藤井に連絡) 途中各車にて休憩</p> <p>11:30 寮着・部屋割りと荷物搬入 入寮セレモニー(寮の方に挨拶) スイカ割り・昼食・片付け ●明日の予定の打ち合わせ 散策・花の都(水遊び場あり)</p> <p>17:00 寮でBBQ</p> <p>19:30 花火・キャンプファイヤー → 風呂 懇親会</p> <p>22:00 消灯</p> <p>24:00 絶対就寝</p> <table border="1" data-bbox="821 1075 1045 1344"> <tr> <td>女子・みこころ荘</td> <td>15:30~21:00</td> </tr> <tr> <td>男子・みこころ荘</td> <td>21:30~</td> </tr> <tr> <td></td> <td>21:00~21:30</td> </tr> </table>	女子・みこころ荘	15:30~21:00	男子・みこころ荘	21:30~		21:00~21:30	<p>28日</p> <p>7:00 起床</p> <p>7:30 朝食・おにぎり作り(家族ごと) 部屋の掃除・荷物片付け</p> <p>8:30 ●ハイキング準備・出発 27日に打ち合わせ 持ち物・おにぎり、飲み物・おやつ 帽子、汗拭き、ハナ紙、レジャーシート等 ●サイクリング準備・出発 27日に詳細連絡 持ち物・ハイキングに準ずる 昼食・おやつ</p> <p>15:00 KABABUS 乗り場 15:00---28人</p> <p>16:30 寮着 使った場所の掃除と片付け 退寮セレモニー(寮の方挨拶)</p> <p>17:00 寮出発・解散</p>
女子・みこころ荘	15:30~21:00							
男子・みこころ荘	21:30~							
	21:00~21:30							
<p>雨天時</p> <p>① ゲーム・工作(新聞紙・画用紙・紙コップ・風船・ガムテープ) (フリースペースにてスゴロク製作して遊びましょ)</p> <p>② 小雨時散策</p>								

今年は聖ヨゼフホーム協賛で真如苑より補助金を頂き破格の低費用で開催することが出来ました。活動の準備もまたして頂き大変楽しい2日間でした。天候は台風を迎えに往くような状態だったので、スケジュールを臨機応変に1日目は室内ゲーム、2日目は晴れましたがハイキング班は豪雨後の山を断念し花の都公園でのんびりと過ごして来ました。カババスにも皆で乗れて良かったです。初めての宿舎で使い勝手に戸惑いましたが来年もここを利用したいと思います。サイクリングにも挑戦したくなる様な良い環境でした。